



都筑区 ナチュラルガーデンの 手引き

令和 2 年 3 月

横浜市都筑区都筑土木事務所

目次

| | |
|--------------------|----|
| 1. はじめに | 02 |
| 2. ナチュラルガーデンのすすめ | 03 |
| 3. ナチュラルガーデンとは | 04 |
| 4. なぜ宿根草・多年草か | 06 |
| 5. ナチュラルガーデンづくりの流れ | 08 |
| 6. 都筑区標準レシビ | 24 |
| 7. ナチュラルガーデンの事例 | 30 |
| 8. ナチュラルガーデン講座の記録 | 32 |
| 9. ナチュラルガーデン植物リスト | 34 |
| 10. おわりに | 36 |

1. はじめに

都筑区は、都市環境が発達し高い利便性を誇るまちでありながら、身近な「みどり」が豊かな地域です。区の北部では港北ニュータウン計画により開発前のみどりを最大限いかしたまちづくりがされています。また、区の南部には都筑区の原風景といえる田畑やあぜ道、雑木林といった景観が残っています。こうした豊かなみどりは四季折々に異なった美しさがあり、同時にどこか懐かしさを感じさせます。「ふるさとを感じさせるみどり」が都筑区の大きな特色となっているのです。

都筑区のもう一つの特色は、多くの区民のみなさまが活発にみどりにかかわる活動している点です。公園や緑道では公園愛護会、道路ではハマロード・サポーター、せせらぎ緑道では水辺愛護会とたくさんの団体が花壇づくりなどを通じて、みどりを美しく維持されています。

一方で、港北ニュータウン整備から30年が経過し、木々が大きく成長する中で暗く草花が生えなくなってしまった場所や、水やりや除草などの日々の手入れが困難な個所が生じています。

そこで都筑土木事務所では、都筑区の特徴をいかし、課題を解決する園芸手法として『ナチュラルガーデン』に取り組んできました。この手引きは、令和元年度に開催された「都筑緑花塾ナチュラルガーデン講座」の内容をベースに、無理なく、楽しみながら、花と緑あふれる公共空間をつくるための手法を紹介するものです。一年草花壇と、ナチュラルガーデンそれぞれの特徴を活かし、組み合わせることで、みどり豊かで美しい都筑区を作っていきたいと考えています。



2. ナチュラルガーデンのすすめ - 「ガーデニング疲れ」の方へ -

緑道や公園に咲く花々を見て、みなさんはどのように感じますか？ 心が安らぐ、リフレッシュする、四季を感じるなど、肯定的に捉える方がほとんどではないでしょうか。花や緑あふれる公共空間は、私たちの暮らしを豊かにしてくれます。

一方、花壇の維持管理は、水やりや草とりなど活動の苦勞が絶えないのも事実です。日本の花壇は花が長く咲くよう改良された一年草中心のものが主流です。このタイプの花壇はとても華やかで魅力的なのですが、水やりや花殻摘み、植え替えなど作業が多く、続けるのに疲れてしまった、という声が寄せられることもあります。

実は、ガーデニングの本場イギリスでも「ガーデニング疲れ」が話題になっていて、それを解決する新しいスタイルが登場しています。その名も「Lazy Gardener」…日本語訳するならば、「ずぼらガーデナー」といったところでしょうか。ガーデニングは、日々の暮らしを楽しく豊かにするものです。頑張り過ぎて義務感でやってしまっは本末転倒です。適度に手を抜いて楽しく続けることが大切です。もっと楽に、鼻歌交じりにできるのが理想です。

「ナチュラルガーデン」はそんな手法の一つです。自然に目を向けると、草原や雑木林にはさまざまな種類の植物が自生し、誰も水やりもせず肥料もあげないのに、毎年花を咲かせています。この自然の花畑をお手本に、もっともっと肩の力を抜いて花壇やガーデニングを楽しんでみてはいかがでしょうか。



華やかだが手間のかかる一年草花壇



さまざまな植物が混じり合う明るい草原



やや日陰でも様々な植物が生えている

3. ナチュラルガーデンとは

「ナチュラルガーデン」は、自然をお手本に、なるべく植物の力を引き出して任せてしまう手法です。そのため、これまでの花壇とはさまざまな面で違うところがあります。ここではナチュラルガーデンの手法が生まれた背景についてまとめながら、その特色を4つ取り上げて、ナチュラルガーデンの魅力について深めていきます。

●ナチュラルガーデンの生まれた背景

庭園や花壇の歴史を考えると、その流れは大まかに二つに分けることができます。一つは、自然を人間が考える理想に当てはめようという考え方で、フランスのベルサイユ宮殿の庭園などが代表的です。幾何学的に成形された庭園は周囲の自然環境とは明確に区切られています。四角い枠で周囲と区切り、整然と植えられた一年草花壇も、スケールの違いはありますが、同じ流れにあるものと言えるでしょう。

もうひとつの流れは、自然の風景をいかし、取り込もうという考え方です。その代表格といえるのがイギリス式の庭園で、柵の代わりに深い溝で区切るため周囲の風景と一体となっています。イングリッシュガーデンはその流れから発達したのですが、たくさんの花を咲かせることが主流となったため、「ガーデニング疲れ（前頁参照）」が起こるようになりました。そこで、より自然の風景に近くお手入れも楽なナチュラルガーデンの考え方が生まれました。

より自然的な庭園を求める流れは現代の日本にも当てはまります。「里山」に注目が集まり住宅の庭では雑木の庭が人気を集めています。もともと日本には遠くの風景を庭に取り込む「借景」の考え方があり、また、素朴な野の花を愛でる文化がありました。こうした背景もあり、緑の少ない都市部においてナチュラルガーデンが受け入れられつつあるのかもしれない。



園路の縁を飾る植栽帯



あえて枯れた姿を残す

さて、自然をお手本としたナチュラルガーデンとは、どのようなものでしょうか。その特色は4つのポイントに集約できます。

●周囲の風景と一体化する

ナチュラルガーデンの花壇は、周囲の風景となじんで互いに引き立て合うように作ります。そのため、その場の地形や園路の形を生かすようにしつらえます。花壇を目立たせることよりも、周りも含めた風景を作ること重視なのです。

●四季の移ろいを大切にする

ナチュラルガーデンでは、春に芽生え、夏に茂り、秋に色づき、冬に枯れる植物の季節のリズムをありのままに楽しみます。花だけでなく、葉の色や形、シードヘッド（花後の果実が枯れた物）や秋冬の枯れた姿もあえて残し、鑑賞します。

●ランダムに、曲線的に

ナチュラルガーデンでは、柔らかな曲線を描いてランダムに配置し、くつろいだ雰囲気を作ります。また、ランダムに置くことで、少々の雑草も目立たなくなります。

●宿根草・多年草を中心に

ナチュラルガーデンで主に使う宿根草・多年草は、一年草とくらべ花の量は少し減ってしまいがちですが植え替えなくても毎年花が咲きます。原っぱや雑木林の林床の草本も宿根草・多年草がほとんどであり、手入れしなくとも、毎年芽吹いて花を咲かせます。

【宿根草・多年草とは？】 この手引きでは、2つ合わせて「宿根草・多年草」と呼びます。
 ・多年草：2年以上生きる草本（植物学の定義）、冬に地上部が残る常緑の多年草（園芸での定義）
 ・宿根草：冬に地上部が枯れる落葉性の多年草（園芸での定義）



ランダムな配置が柔らかい雰囲気をつくる



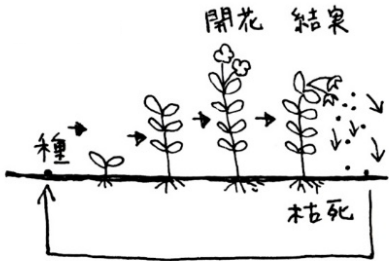
色や形もさまざまな宿根草・多年草が花壇の主役

4. なぜ宿根草・多年草か

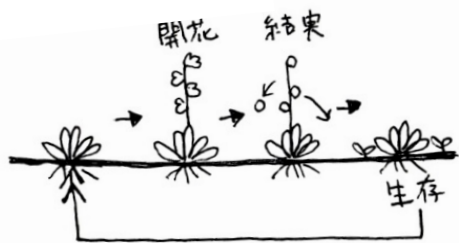
ナチュラルガーデンで欠かせないのが**宿根草・多年草**です。花が終わったら植え替えが必要な一年草と異なり、何年も植えっぱなしが可能で、上手に植えれば雑草も生えにくくなります。そこにはどんな秘密があるのでしょうか？

●自然の中での一年草と宿根草・多年草の違い

《一年草》
種だけ残し、1年未満で枯れてしまう



《宿根草・多年草》
2年以上枯れずに生き残る



一年草、宿根草・多年草の一生

| | 一年草 | 宿根草・多年草 |
|--------|------------------------|-----------------|
| 環境 | 変化が激しい環境を好む | 安定した環境を好む |
| 主な生育場所 | 自然災害や人の手によって生じたむき出しの土壌 | 時を経て落ち着いた草原や森の中 |

自然に生える植物は、樹木も含め、寿命が長いほど安定した環境を好み、寿命が短いほど変化が激しい環境を好みます。一年草は、寿命が極端に短いため、崖崩れの跡や川の氾濫に晒される河原、人間が耕作して土がむき出しになる畑など、短い時間で生活場所が失われる所でも生きていけます。一方で、宿根草・多年草は何年も生き続けるため、どちらかというときを経て落ち着いた草原や森の中など安定した環境に生えるものが多いのです。



収穫の終わった畑のむき出しの土にホトケノザやオオイヌノフグリなどの一年草が生えている

華やかさが魅力の一年草ですが、もともとははかない環境を居場所とし、素早く消えてしまう性質があります。

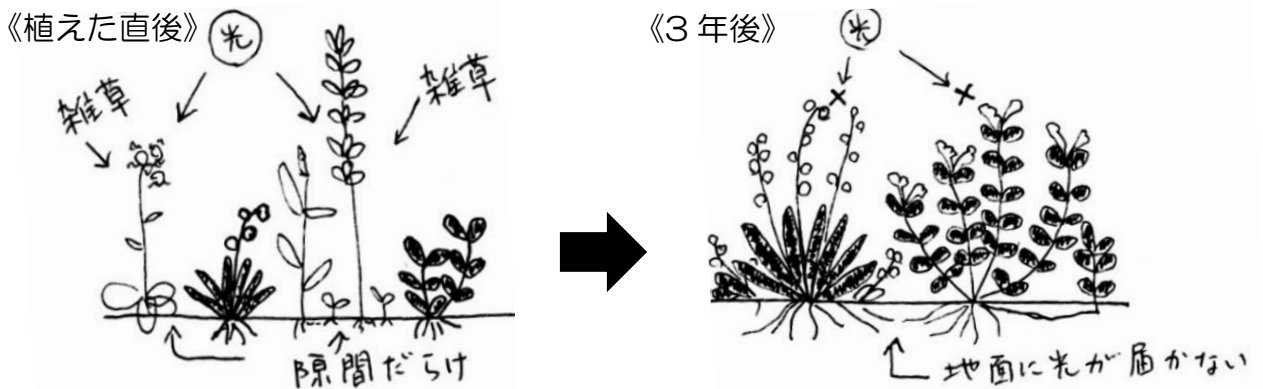
●園芸で重宝される宿根草・多年草

| | 一年草 | 宿根草・多年草 |
|----|------------------------|--------------------------|
| 管理 | 定期的な植え替えや種まきなど、手間がかかる。 | 植え替えや種まきの手間が少なく、ローメンテナンス |

園芸の世界では、前述したような自然の中での一年草と宿根草・多年草の長所・短所を生かした使い分けがされています。一年草は、植え替えなどの手間はかかりますが、華やかな種類が多く、季節ごとに植え替えればダイナミックな演出が可能です。宿根草・多年草は植え替えなどの手間が少なく長く維持する花壇に適しており、うまく育てれば雑草の生える余地をなくしたローメンテナンスな花壇を実現できます。

●雑草に空間を与えない

- 植えた最初の頃は株間に隙間があり、雑草が生えやすいですが、1～2年間、草とりを頑張れば、草とりはだんだん楽になります。
※雑草の多くがむき出しの土のような開けた環境を好む一年草です。
- 3年程経ち、宿根草・多年草の株が大きくなると、土が露出した場所がなくなり雑草が生えず、草とりがほとんど必要なくなります。
- 様々な植物を自然な配置で植えれば、もし隙間から雑草が生えてきても花壇の一部に見え、目立ちません。



植えた直後と3年後の宿根草・多年草と雑草の関係性



隙間は雑草を利することに…



宿根草・多年草で覆えば雑草は生えにくい

5. ナチュラルガーデンづくりの流れ

Step1 花壇予定地を決めて観察

⇒10 ページへ



花壇の周りにもよく目を配りましょう

公園等全体の景観や一般利用者の利用状況をふまえ、花壇の場所を決めます。その後、日当たりや土壌の湿り気などの環境条件を観察しましょう。

Step2 テーマを決める

⇒11 ページへ



みんなで共有しやすい、手応えのある言葉を選びましょう

花壇づくりのメンバー同士で考え方が共有できるように、どのような花壇にしたいのか、テーマを設定しましょう。

Step3 レシピづくり

⇒12 ページへ



冬の景色をイメージしながら植物を選びましょう

図鑑の情報や花壇予定地の環境、テーマに合うように、花壇の植栽のレシピ（植物の組み合わせ）を検討します。

Step4 配置図をつくる

⇒14 ページへ



曲線的に、ランダムに配置しましょう

Step3 で作成したレシピを元に、花壇の完成像を想像しながら植物の配置図を作ります。ここで、植える植物の株数も決定します。

Step5 植え込み

⇒16 ページへ



実物を前にした美的感覚を大切に置いてみてから微調整も OK です

レシピ通り苗を調達し、地ごしらえ、土づくりを行った後、配置図を参考にしながら植え込みます。

Step6 お手入れ

⇒22 ページへ



最初だけ頑張っ、あとは無理せずほどよく自然に任せましょう

植えた直後だけ草とりと水やりをしっかりと。その後は植えた植物のトリミングが主な作業で、水やりは原則不要。草とりもどんどん楽になります。

Step 1 花壇予定地を決めて観察

まずは、花壇を作る場所を決めましょう。対象となる公園や緑道をよく眺め、多くの人の目に触れるなど利用条件の適した場所を選びます。場所を決めたら、明るさ、土の湿り気などの環境条件を知るために、現地をよく観察しましょう。その結果、管理がとてとも困難そうなら場所を再考します。利用条件と環境条件のバランスが大切です。

●花壇予定地を決める際のポイント

《利用条件》

- 公園・緑道にどんな施設があるか（運動場がある、雑木林がある等）
- 一般利用者の動線を確認し、人の目に触れやすいかどうか
- 一般利用者の年代や利用する傾向（子供が多い、運動する人が多い、など）
- 公園・緑道が抱える課題の解決につながるかどうか（ゴミ捨てが多い、など）

植物が生える場所には、必ず「好み」があり、環境に合わない場合は生き延びることができません。環境を読み取り、その環境に合った植物を植えることが重要です。なお、場所の明るさや湿り気などの他に、いろいろな形で植物がダメージを受ける「攪乱^{かくらん}」の度合いも重要な環境条件です。

●環境条件の観察ポイント

《環境条件》

- 周囲にあるもの：高木、建物、壁など
- 明るさ：日陰、半日陰、日向などの日当たり
- 土の湿り気：乾燥した環境から、水辺のような常に水がある湿った環境まで
- 空気の湿り気：風通しがよい場合と、空気が動かず湿気が溜まる場合
- 風の強さ：風が強い場所ではそれに耐える植物が必要
- 人に踏まれる頻度：利用者の動線に近い場合、踏みつけに耐える植物が必要



環境条件のイメージ

Step 2 テーマを決める

仲間やまちの人と考えを共有し、どのような花壇にしていくのか、花壇のテーマを設定しましょう。その際、できる限り花壇に関わるみなさんの意見を集め、じっくり話し合っ
て決めることが大切です。そして、きれいな言葉よりも、完成した後の風景をイメージできる手応えのある言葉を使うようにしましょう。

●テーマ決めのポイント

- ①現場の自然環境、周辺の自然や風景との関係性
- ②利用者層、道ゆく人からの視線
- ③作る人のメッセージ
- ④どのような場所にしたいのか

参考に、令和元年5月から令和2年2月にかけて開催された「都筑緑花塾ナチュラルガーデン講座」の中で整備を行った東方公園の花壇のテーマを紹介します。東方公園は、雑木林がある自然豊かな環境と、遊具広場など人が利用する環境が混在した公園です。

①自然環境、周辺の自然や風景との関係性

- ・雑木林や桜の木などが背景
- ・爽やかな風が通りぬける。

②道行く人からの視線

- ・遊具広場や園路に近く、公園利用者の目に留まる。

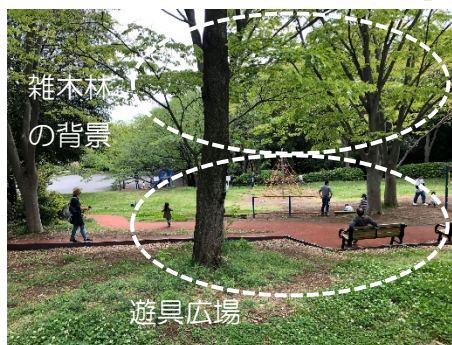
③作る人のメッセージ

- ・令和元年の台風15号の強風も受け流すしなやかさを持つ宿根草・多年草を使い、平常時の穏やかな風の通り道を表現したい。

④どのような場所にしたいのか

雑木林や桜の木を背景に、宿根草・多年草が風に揺れ、見る人が穏やかな気持ちになる花壇。

テーマ：
「穏やかな風の通り道」



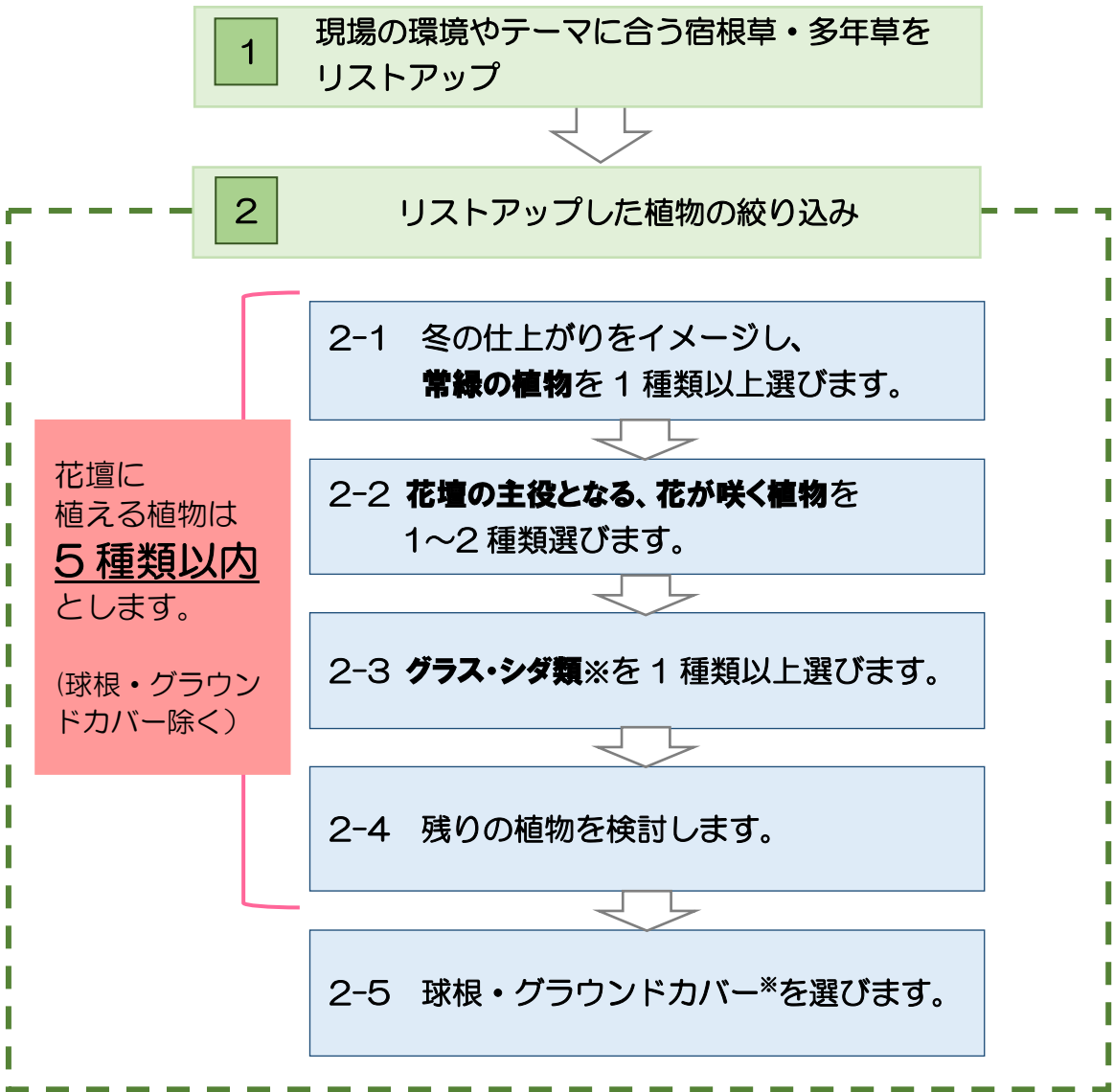
テーマに繋がった背景



テーマを検討

Step 3 レシピづくり

花壇のテーマを設定したら、次はレシピ（植物の組み合わせ）を検討します。レシピづくりは、下記のフローに示す手順で行います。



※グラス:イネ科の植物等細葉を持つ植物
シダ類:シダ植物。どちらも花ではなく、葉を鑑賞します。

レシピ作りの手順フロー

1. 現場の環境やテーマに合う宿根草・多年草をリストアップ

- 図鑑等を見て、次の条件で植物を絞り込みます。

【日照条件（日陰、半日陰、日向）】－【草丈】－【土の湿り気の好み】

- 繁殖力が強い植物は選ばないようにして下さい。

※都筑区標準レシピ(p24)、ナチュラルガーデン講座の植物リスト（p34）も参考にして下さい。

2. リストアップした植物の絞り込み：5種類以内でシンプルなデザインを目指す

2-1 常緑の植物を1種類以上選ぶ

- 宿根草は、冬に地上部がなくなります。

そのため、冬の風景も楽しめるよう、
常緑の植物を選びます。



春から秋と冬の違い。冬は常緑の多年草だけが残る

2-2 花壇の主役となる、花が咲く植物を1~2種類選ぶ

- 2-1 で選んだ常緑の植物の花期と花のボリュームを把握した上で、花壇の主役になる花を決めます。その他の花は、主役を引き立てるよう使います。

- 花がどのタイミングで咲くのがよいかを検討します。

例) 春秋中心に咲く、いつでも咲く

2-3 グラス・シダ類を1種類以上選ぶ

- 花壇を花で埋め尽くすのではなく、グラスやシダを組み合わせることで、ナチュラルで落ち着いた雰囲気になります。

※常緑の枠で選択した場合は、選ばなくても構いません。



サルビア・シマカンスゲ（グラス）
クサソテツ（シダ）の組み合わせ

2-4 残りの植物を検討

- 花のない時期にも鑑賞に耐えるよう、すでに選んだ常緑の植物とグラス・シダ類とは異なるタイプの植物を選び、多様な葉の形が見られるようにします。

- 葉の形のみならず、花の形も勘案しながら、混ざりあった際の相性をよく吟味して下さい。

2-5 球根・グラウンドカバーを2~3種類選ぶ

- 早春に色を添えたい、隙間を埋めたい場合は、補助的に球根やグラウンドカバーを加えます。



多様な葉の形の組み合わせ

Step 4 配置図をつくる

レシピを作り、使う植物が決まりました。これらの植物をどのように配置したらナチュラルな花壇になるかを検討するために、植物の配置図を作ります。

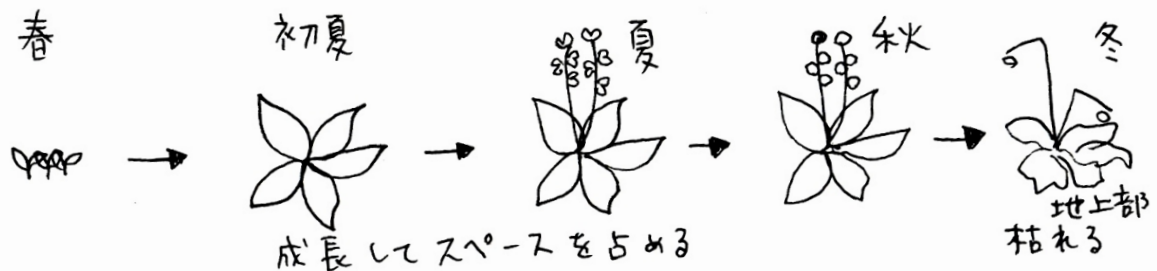
配置図を作る際には、植物の配置が分散しているか偏っているかを確認します。下記のポイントを意識しながら、まずは「模様としてのきれいさ」を目指して配置します。

●配置図を作る際のコツ

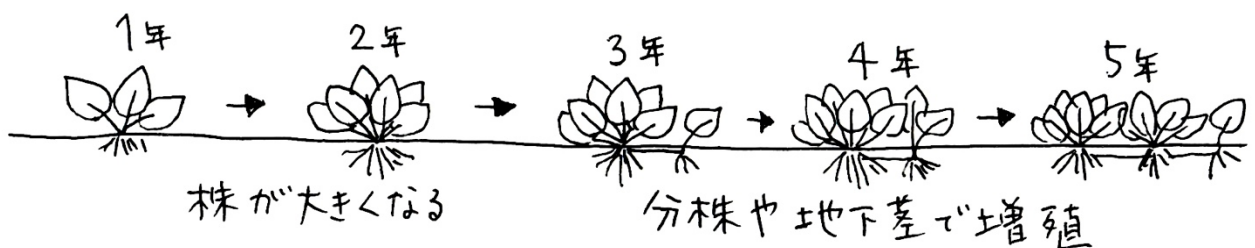
①四季の変化や時間が経過した後の姿をイメージします。

植えた植物が成長して大きくなり、花が咲いて枯れていく時間軸を意識しましょう。一年草と異なり、年々株が成長して大きくなるため、2年後3年後のイメージを持つことも大切です。

《1年間》



《数年先》

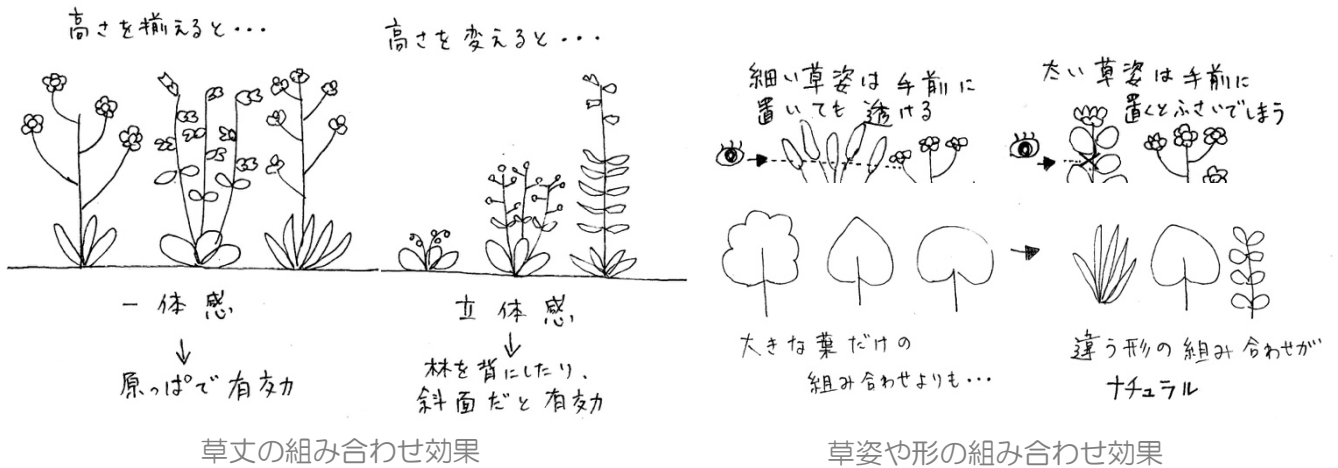


②株を直線に並べたり、等間隔にしたりせず、ランダムな配置とします。

ランダムでどこかに偏りがあるとナチュラル感が出てきます。株間の距離が等しくならないように配置します。

③草丈、草の姿や葉の形の組み合わせを考慮します。

植物が成長した際の立体感をイメージしながら、草丈のバランス、草姿や形の組み合わせを考えましょう。



●配置図づくりの手順

① 途中でテーブルを囲んで配置図を作成できるように道具の準備をします。

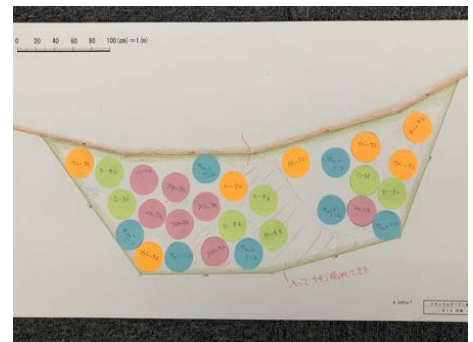
【準備する道具】

- ◆ 図面 (1/10 程度の縮尺のもの)
 - ・ 公園の地図を拡大したり、花壇予定地を実測したりするなどして作成します。
- ◆ 丸付箋 (1 種類の植物に対し 1 色。必要な株数分)
 - ・ 植物の株に見立てて作ります。株数は 1 m²あたり 9 株で計算します。
 - ※ 宿根草の幅は、基本的に 30cm 程度のため、図面が 1/10 の場合は直径 3cm の付箋。
- ◆ のり、色鉛筆 等

② 丸付箋に、使う植物の名前を書き入れます。
必要な株数分の丸付箋を作成します。

③ 丸付箋を植物に見立てて図面に配置します。

④ 丸付箋を配置した図面を撮影し、
配置図の完成です。
この配置図を参考にしながら、実際の植栽を行います。



完成した配置図

Step 5 植え込み

いよいよ、植え込み作業です。地ごしらえ・土づくりをしてから植え込みを行います。作業中の安全確保にも十分に留意しましょう。

①作業中の安全管理

花壇づくりであっても、重大な事故につながる危険が潜んでいます。作業の開始と終わりには必ず全員で安全面の課題や注意点を共有します。また、リーダーは少しでも危険なことがあれば作業を止めて起こった危険について全員に共有し、注意喚起をするようにしましょう。

・作業区画を明示し、一般利用者との接触を防ぐ

カラーコーンなどを使って、作業区画をはっきり示しましょう。特に地ごしらえ作業はスコップやクワを使うため、一般利用者が至近距離を通ると事故になる危険性があります。



作業中標示の例

・役割を決めて全体の安全を確認する

何人かで作業すると、それぞれが作業に没頭してしまい、気がつかないうちに双方が接近し思わぬ怪我に繋がる場合があります。

あえて作業をせず全体を見渡す役をひとり決めて、声を掛け合うことが必要です。



向かい合う作業は危険な場合も

・道具の使い方や手入れ

不具合のある道具を無理やり使ったり、作業中の扱いが悪かったりすると事故につながります。作業前には必ず道具の点検をしましょう。

また、使わない道具は一箇所にまとめ、整理整頓を徹底します。

・作業環境の把握と熱中症対策

作業日の天候、特に気温には十分注意しましょう。夏場は熱中症に警戒が必要です。作業する場合は水分と塩分を補給しましょう。気温が低い早めの時間帯に作業することも検討しましょう。冬場は氷点下など極端に気温が低い場合の作業は避けましょう。

②地ごしらえ・土づくり

地ごしらえ・土づくり作業※をしっかりと行うことによって、植物が根を健全に伸ばし、水分やミネラルを吸い上げやすい土を作ることができます。

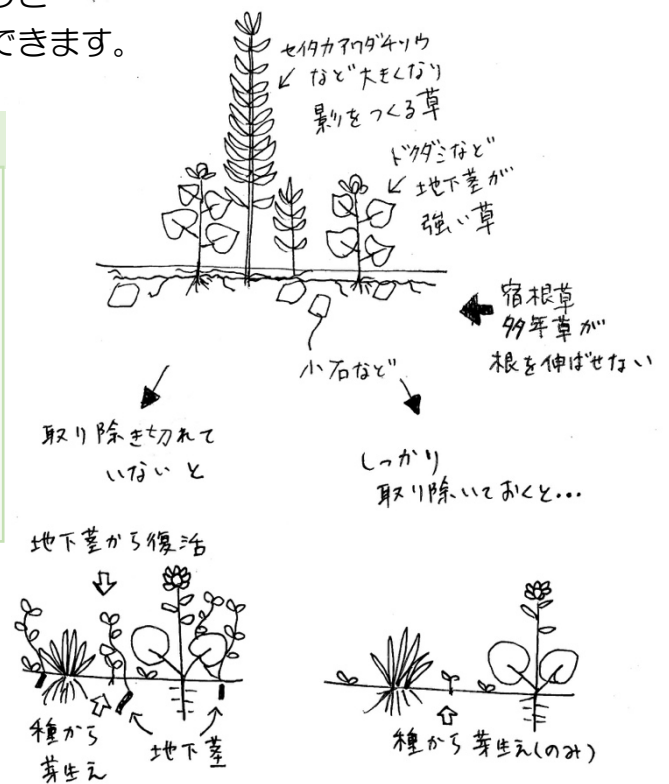
※「地ごしらえ」は、根の伸びを邪魔するものを取り除くための作業、「土づくり」は、堆肥や肥料などを投入して根によいものを準備する作業のことを指します。

(1)「雑草」を取り除く

花壇・ガーデン予定地にある雑草を全て取り除きます。この作業をしっかりと行うとその後の草とりの手間を減らすことができます。

●特に注意して取り除くもの

- ・雑草の根や地下茎、球根など※1
 - ・花壇の計画にない既存の園芸植物
 - ・小石やゴミ（根の伸びを妨げる）
- ※1 地下茎等で増えやすい植物
ドクダミ、ヨモギ、セイタカアワダチソウ等の雑草、アスターやヒメリユウキンカなどの園芸植物



(2) 耕うんと土づくり

雑草とりで変わる数年後の花壇

剣スコップや耕うん機などで予定地をしっかりとほぐします。ほぐすことで、土の密度が低くなり、空気が含まれ、根の呼吸や水・肥料の吸収がしやすくなります。必要に応じて肥料や土壌改良材を混ぜ込みます。

耕うんのポイント

- ・地下30cm※ までほぐしましょう。
- ※草本植物の根が多く分布するのは地下30cm程度とされています。

地ごしらえ・土づくりの適期

植物が休眠している晩秋から早春くらいが適期。
夏場も可能ですが、雑草の勢いも強いため、より労力がかかります。

〇地ごしらえ・土づくり様々なケース

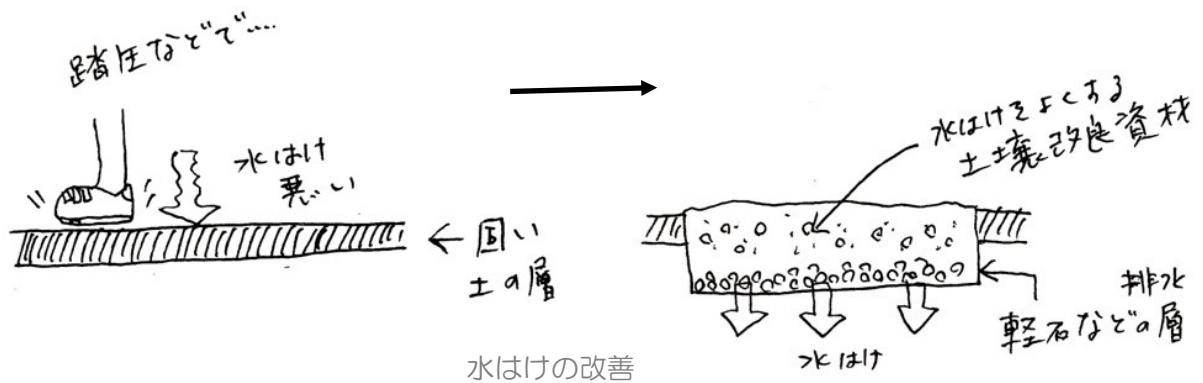
ケース1：水はけが悪い/良すぎる時の改良方法

《水はけが悪い場合》

- ・深く穴を掘って、軽石などの水はけのよい素材で排水層を作ります。
- ・表土に鹿沼土や軽石、腐葉土を追加し改善します。

《水はけが良すぎて乾燥する場合》

バーク堆肥やピートモスなど保水性のよい有機物を追加して改善します。



ケース2：客土（土を足す）をする場合

《オススメの土（予算に合わせて）》

少量の場合：草花に適した調合の培養土を利用します。

大量の場合：土や赤土に堆肥などを混ぜたもの利用します。

※草の種がなるべく入らないようにするには、焼成している赤玉土が確実です。

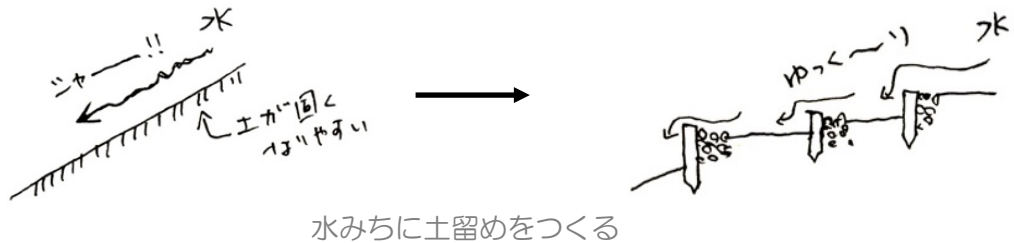
一利用を避けたい土ー

- ・周辺で発生した土やコンクリート工事の周辺にあった土*

※草の種や地下茎が含まれていることが多かったり、コンクリートの欠片等が混ざっていたりする場合があります。コンクリート片が混ざるとアルカリ性が強くなり、生育不良の原因になることがあります。

ケース3：傾斜や水みちがあった場合の処理

傾斜があったり、水が流れる場所（水みち）は土が固く、植物が育ちにくいので、板や粗朶などで土留めを作り、水の流れを穏やかにするとより多くの植物が植えられます。



ナチュラルガーデンでよく使う肥料・土壌改良資材

肥料や土壌改良資材には、それぞれ一長一短があります。ナチュラルガーデンでは肥料に頼りすぎず、土を柔らかくする土壌改良を重視します。

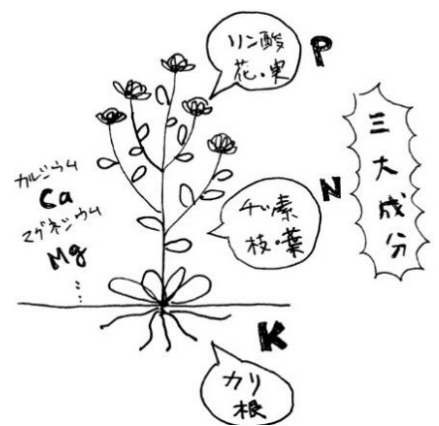
《土壌改良資材》：土壌に空気が行きわたるよう柔らかくします

- 堆肥、腐葉土などは肥料としての側面もありますが、自然の植物を発酵させたものなので、有機物により土壌生物の活動を促して土壌を柔らかくしたり、発根を促したりする効果が期待できます。また、チッ素、リン酸、カリウム以外の微量元素も豊富です。
- バーク堆肥、腐葉土は水はけなど土壌改良のために使います。
- 牛糞・馬糞堆肥は、土壌改良効果とともに、緩やかに効く肥料にもなります。
※与えすぎると、チッ素欠如を起こすことがあります。

《肥料》：与えすぎに注意。逆効果になることもあります。

- チッ素 (N)、リン酸 (P)、カリウム (K) を中心に栄養分を補填します。ただし、チッ素を与えすぎると、葉や茎ばかりが茂り、花や実がつきにくくなります。
- 鶏糞や油粕は、よく使われる有機肥料ですが、鶏糞の与え過ぎはアルカリ性が強過ぎ、油粕の与え過ぎはチッ素が過剰になりすぎるので注意しましょう。
- チッ素、リン酸、カリウムがバランスよく配合された緩効性の化成肥料 ※を適量与えることが、失敗が少ない方法です。

※即効性のものよりも緩やかに効く



肥料の三大成分とその効果がある場所

③植え付け

植え付けのポイント

- ・事前に検討した図面に従って配置します。
- ・苗の具合など実際の状況を見ながら、調整を行います。
- ・苗の高さと地表面が一致するように植え付け、しっかりと水やりをします。

(1)配置

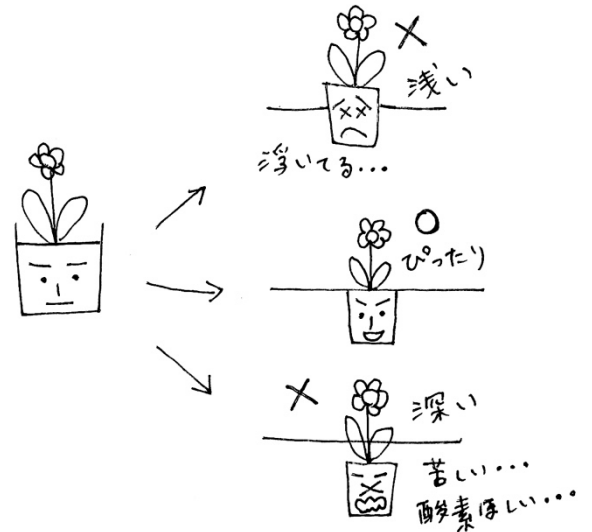
- ・図面を参考に、苗をポットに入った状態で配置します。
- ・苗の形や地形などによって図面通りでは違和感がある場合は、柔軟に配置を変えていきます。



植える前にまずは配置を確認

(2)苗の植え付け

- ・苗の土の面と、地面の地表面の高さが一致するように植えます。
 - ・浅すぎると雨で掘られて浮いてきてしまいます。深すぎると根が酸欠になり生育が不良になる恐れがあります。
- ※苗の段階で、枯葉や花殻はとっておくと仕上がりが綺麗になります。



苗の植え付けは地表面ぴったりに

(3)水やり

植え付け後はしっかりと水やりをします。植え付け後はもっとも乾燥に弱い状態です。ひと株10秒を目安にたっぷりとやります。また水やりすることで隙間が埋まり、土が程よく締まります（水極めと言います）。



しっかりと水やりをします

根鉢は崩すべきか？

根鉢を崩すことにはこだわり過ぎず、あまりに根詰まりしている場合だけにしてもよいでしょう。

《根鉢を崩した方が良い場合》

ポット内に根が充満している場合は、根が順調に伸びないことがあるので、ぐるぐる巻きになった根を崩してから植えます。

※マメ科など根鉢を崩すと枯れやすい植物もあります。

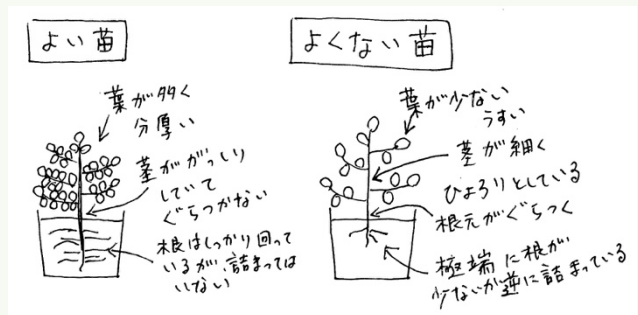
○植物苗の入手について（独自に調達する場合）

植える植物苗が質の良いものでなければ、せっかくお金をかけても良い花壇にはなりません。苗の状態を吟味しましょう。

また植物苗の入手は様々な手段があります。

良い苗を選ぶポイント

- ・ 茎が太く、葉数が多く、がっしりして根が張っているもの
 - ・ 脇芽がたくさんあってみっちりしているもの
- ※根元がぐらつくもの、根鉢が固すぎるものは避ける。



植物苗の入手方法

- ・ 園芸店・ホームセンターで買う
- ・ インターネット等の通信販売で買う^{※1}
- ・ 種まき、株分け、挿木などで増やして交換する^{※2}

※1 盗品や違法な山採り苗といったリスクを回避するため、信頼のおけるサイトを利用しましょう。

※2 品種によっては知的財産権が保護されているものがあります。自分たちで楽しむ分にはよいですが、増やして販売すると処罰されますので注意してください。

Step 6 お手入れ

ナチュラルガーデンは手がかからない、とはいえ最初から放置というわけにはいきません。その代わり最初に少しだけ頑張れば、徐々に楽になっていきます。

●植込み後の作業ポイント

- 植込み直後、根付くまでしっかり水やり
- 草とりはだんだん楽になる
- トリミング上手がナチュラルガーデン上手
- 肥料は植物の顔を見ながら
- 大きくなりすぎたら間引き、整理
- 株分けや挿し木で増やしてみよう

• 植込み直後、根付くまでしっかり水やり

植えつけ後 1 か月くらいは、春秋冬なら週 1 回くらい水やりをしてください（夏なら 2、3 日に 1 回必要です。夏はなるべく植えつけは避けます）。

根付いてきたら、雨水だけでまかいません。むしろずっと水やりをすると根が浅くなり、水やりに頼るようになります。夏場 2 週間くらい雨が降らないような極端な渇水の時だけ水やりしましょう。



水やりするときはたっぷりと

• 草とりはだんだん楽になる

植えた苗が育たないうちは、隙間に生える雑草を取る必要があります。月 1 回程度、しっかり取りましょう。特に、背が高くなり苗を圧倒するオオアシチノギクやコセンダングサには注意が必要です。

苗が育って隙間が埋まってくると作業が減り、3 年ほど経つとあまり草とりが必要なくなります。

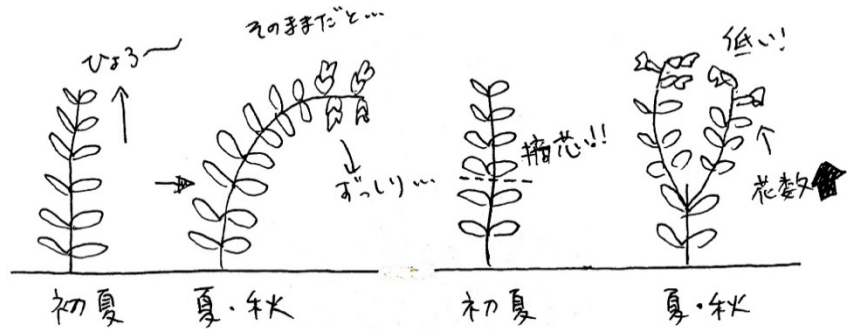


隙間の雑草をしっかり取ります

・トリミング上手がナチュラルガーデン上手

花後の茎や余分な枝、枯葉をカットするトリミングをうまく行えば、より長く花を楽しむことができます。特に茎が立ち上がるタイプの宿根草は、花の終わりかけに茎をトリミングすると脇芽からまた咲いてきます。キク科やシソ科で特に有効です。取り除いた終わりかけの花は、ちょっとした一輪挿しには十分ですので、ぜひ飾ったり、挿し木に使ったりして活用しましょう。

また、初夏ごろ新しい茎が伸びてきた際には、そのまま伸ばすと倒れ込むことがあるので、茎を大胆にトリミングします(摘心といいます)。これにより、草丈が低くなり、支柱を立てる必要がなくなるうえに花数も増えます。



・肥料は植物の顔を見ながら

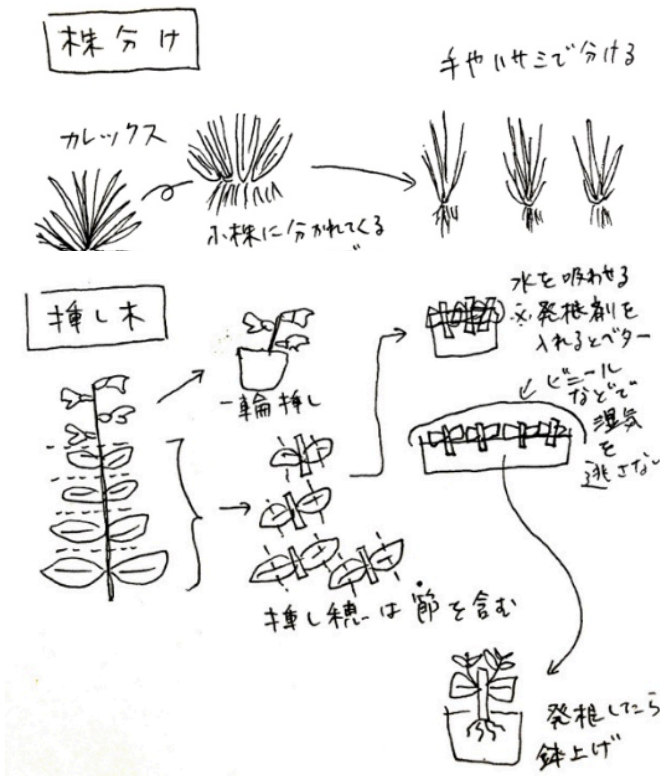
原種に近い宿根草・多年草にはもともとの土壤に元肥や堆肥を混ぜる程度で十分です。特に窒素の与えすぎは葉が茂って管理が大変になります。ナチュラルガーデンでは、肥料も頑張り過ぎず、植物の顔を見ながら少しずつ与えましょう。

・大きくなりすぎたら間引き、整理

株が大きくなりすぎると蒸れる可能性があります。混みすぎた場合は間引いたり大胆にトリミングしたりして植物同士が絡まり合わないようにしましょう。株分けにより植物を増やすにもいいタイミングです。

・株分けや挿し木で増やしてみよう

宿根草・多年草は増やして新しい花壇に植え付けたり、トレードしたりする楽しみがあります。一年草は種からですので、小さな芽生えから間引きをするなど手間がかかりますが、宿根草・多年草は、株分けや挿し木ができるためもう少し楽です。



6. 都筑区標準レシピ

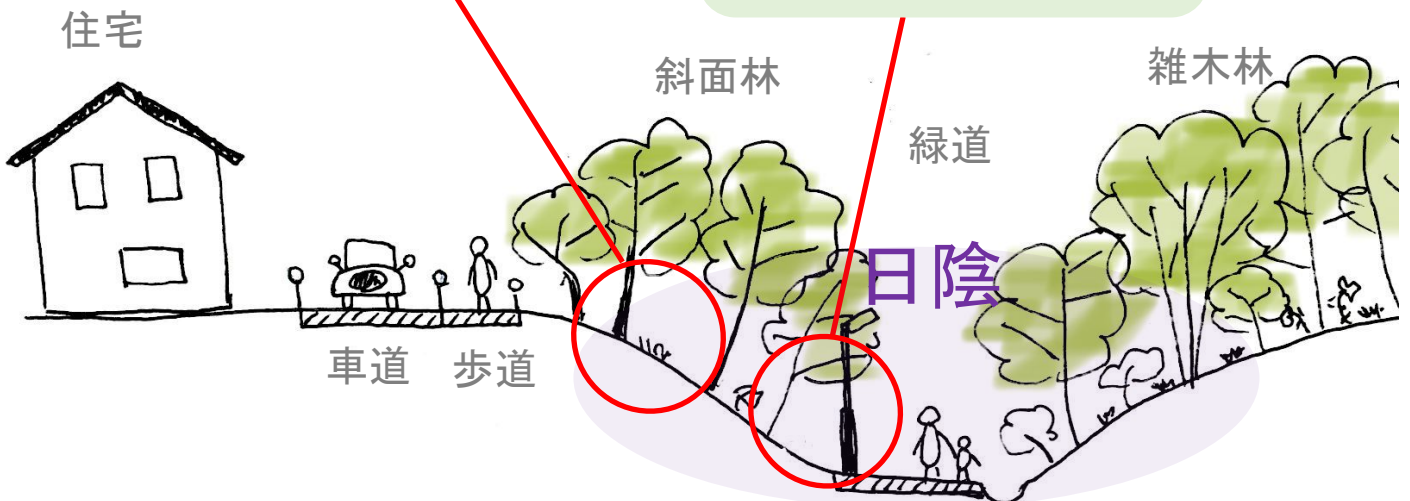
ここまで、ナチュラルガーデンづくりの流れについて見てきましたが、まだまだ「やってみたいけど、どうしたらいいか…」と不安に思う方もおられると思います。そこで、都筑区の環境に適していて、お手入れもしやすい植物を厳選した「都筑区標準レシピ」をご紹介します。

環境条件と植物選びのポイントに沿って植物を選び、「日陰」「半日陰」「日向」の3パターンと、特殊な環境の場合の対処についてまとめました。各レシピのページには、イメージする自然の風景との繋がりについて述べてあります。

都筑区は里山の風景が残り、緑道によって区内の緑がネットワークで繋がられています。下の断面図では、区内にどんな環境があるかを大まかに把握することができます。この図から、花壇を作ろうとしている環境を見つけて、現場に合ったレシピに挑戦すると失敗が少なくなります。また、さらに深めたい場合の参考になるよう、p.34には「ナチュラルガーデン講座」で取り上げた植物のリストを掲載しています。このレシピを活用して都筑区のまちづくりにご参加ください！

●水が流れて土が固い斜面
→ p29 6-4 特殊な環境

●常緑樹もある木陰の緑道
→ p26 6-1 日陰のレシピ



●植物選びのポイント

- 都筑区の自然環境や景観に馴染むもの
- 花色が派手すぎないなど、ナチュラルガーデンのイメージに合うもの
- なるべく風にそよぐような草姿で、景観に動きをもたらすもの
- 近縁な種が日本に自生しているもの ※1
- 種や地下茎などで周囲に逃げ出し、外来種化しにくいもの ※1
- 都筑区自生の植物と交雑しにくいもの ※2

※1 都筑区の環境に合うよう自生する植物に近いものを選びますが、自然の多い都筑区だからこそ、逃げ出して外来種化するものは避ける必要があります。

※2 都筑区に自生する植物と同じ種類のを外から持ち込むことは花粉が交換され交雑することによって地域の個性をなくしてしまいます。これもなるべく避ける必要があります。

●明るい落葉樹の下など

→ p27 6-2 半日陰のレシピ



●日当たりのよい草地など

→ p28 6-3 日向のレシピ



●土が固く乾燥気味な道路の植栽

→ p29 6-4 特殊な環境



6-1. 日陰のレシピ

葉の組み合わせが楽しい、しっとり艶やかな森の花壇

主役の植物には、シダ植物のクサソテツ、花も咲くギボウシ、ツワブキ（常緑）などの大葉系の植物や、湿潤な日陰を好むアスチルベ、シャガ（常緑）などを選択しています。球根は早春の印象を彩るカタクリをイメージしキバナカタクリを、グラウンドカバーには、暗い樹林の中の地表を覆う常緑植物としてノシラン‘ビッタータス’を選択しています。

想定環境：コナラ・クヌギの雑木林の奥やシラカシやスギ・ヒノキの林の中

林の上部は常に枝葉で覆われており、林の縁からの乾燥の影響をほとんど受けないため、湿り気のある日陰の環境が維持されています。下草はシダ植物や、常緑や大きな葉の多年草が多く見られます。



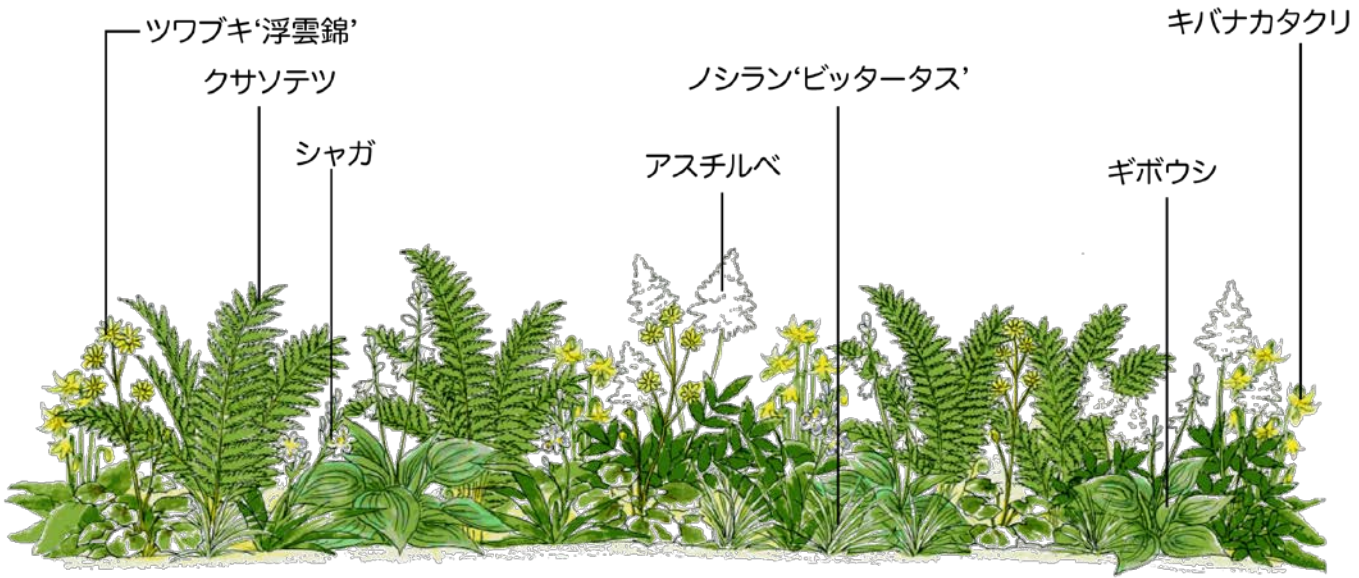
イメージ写真

《主役の5種》

- ・アスチルベ
- ・ギボウシ
- ・ツワブキ‘浮雲錦’
- ・シャガ
- ・クサソテツ

《グラウンドカバー・球根》

- ・ノシラン‘ビッタータス’
- ・キバナカタクリ



6-2. 半日陰のレシピ

木漏れ日に四季の花々が揺れる、明るい雑木林の花壇

主役の植物は、雑木林で春先一番に花を咲かせる植物をイメージしてクリスマスローズ、ヒューケラ、キバナホウチャクソウを選んでいきます。夏から秋にかけては林の縁、やや日陰の原っぱで秋口に咲く背の高い植物をイメージし、チョウジソウやカリガネソウを選択しています。グラウンドカバーに選んだヤブラン、フッキソウは実際の雑木林や林の縁で見られます。

想定環境：明るいコナラやクヌギの雑木林や林の縁

雑木林は定期的な伐採や下草刈り、落ち葉かきのため、やや明るい環境（半日陰）が維持されます。カタクリやシュンランなど草丈の低い植物が早春に花を咲かせることが特徴的です。また原っぱに見られる植物や林のふちを覆うつる植物などが混じりまです。季節の移り変わりによって地上に届く光の量が変わり、花咲く植物が変化していきます。



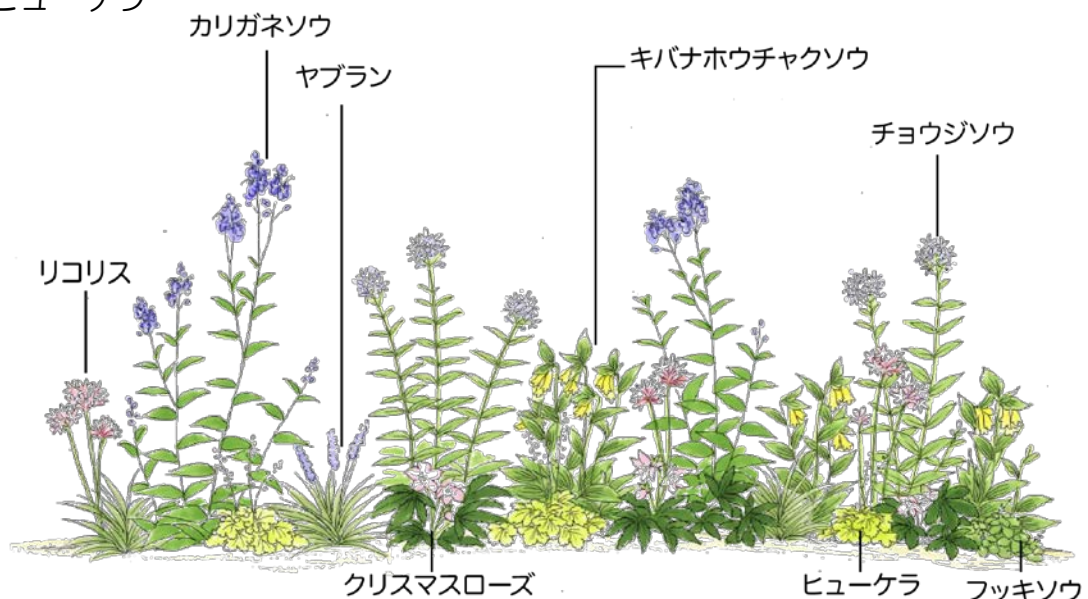
イメージ写真

《主役の5種》

- ・キバナホウチャクソウ
- ・チョウジソウ
- ・カリガネソウ
- ・クリスマスローズ
- ・ヒューケラ

《グラウンドカバー・球根》

- ・ヤブラン
- ・フッキソウ
- ・リコリス



完成イメージ（3年後）

6-3. 日向のレシピ

風にそよぐ、明るい原っぱの花壇

主役の5種には、フロックス・パニキュラータやヘレニウムなどの夏～秋にかけて花の咲く背が高くなる植物やヤマハギを思わせる葉のロータス‘ブリムストーン’、細葉のカレックスなどを選択しています。球根やグラウンドカバーは、丈が低い植物をイメージし、早春から花を咲かせるスイセン‘テータテート’やミツバツチグリに雰囲気似ているグラウンドカバーのワイルドストロベリーを選択しました。

想定環境：畑や田んぼの周りの土手の原っぱ

日当たりが良く乾燥した環境です。ススキやチガヤなどの葉の細いイネ科の植物が多く、草刈り回数によって草丈や種類が変化して行きます。春先にはミツバツチグリやニガナなどの丈の低い植物が、夏～秋にかけてオカトラノオ、オミナエシ、ヤマハギなど50cm以上背の高い植物が花を咲かせます。



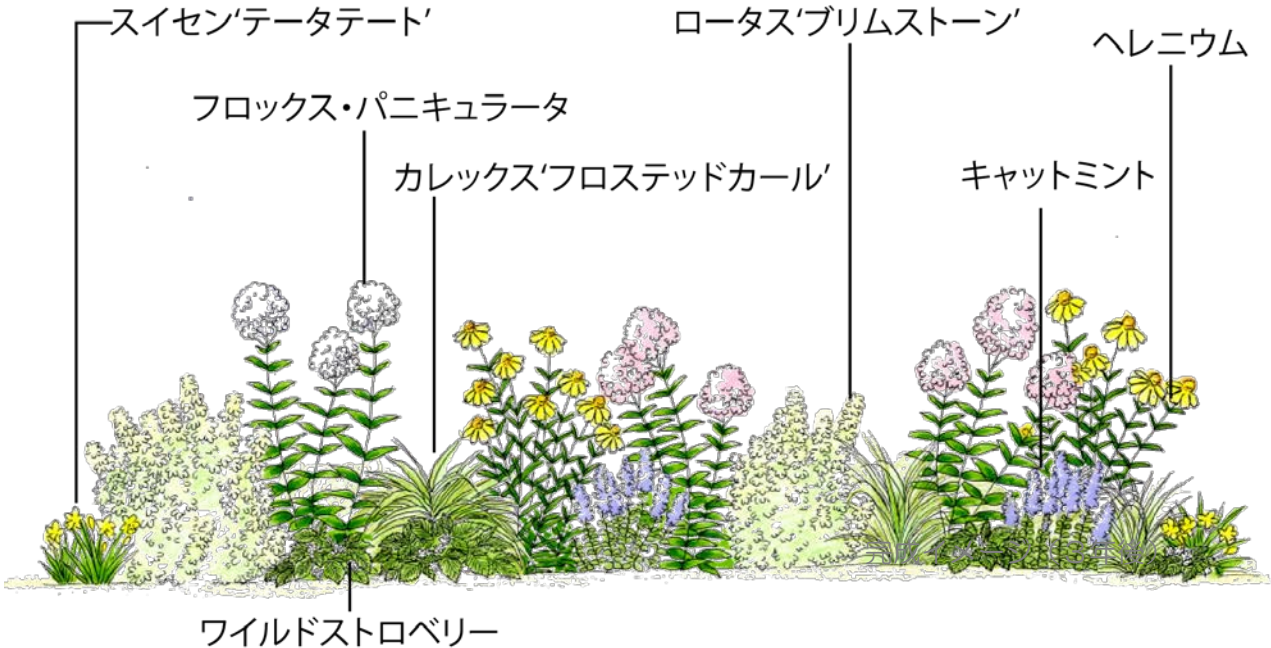
イメージ写真

《主役の5種》

- ・フロックス・パニキュラータ
- ・ヘレニウム
- ・キャットミント
- ・ロータス‘ブリムストーン’
- ・カレックス‘フロステッドカール’

《グラウンドカバー・球根》

- ・ワイルドストロベリー
- ・スイセン‘テータテート’



6-4. 特殊な環境

ガーデンや花壇を作りたい場所が、いつでも理想的な環境とは限りません。標準シピではカバーしきれない難しい環境もあります。その多くは、非常に乾燥していたり、日差しが強かったりといった極端な環境になっている場所です。そんな時も諦めず、慎重に植物を選んだり地ごしらえを工夫したりすれば活路が見出せるはずです。

暗い林の中で、水が流れて土が固い斜面

都筑区の緑道によく見られる、暗い林の中で固くなった土に何も生えていないか、コケだけになっているような場合です。固くなった土をほぐしたり、土留めで水の流れを緩やかにしたりする必要があります（p.18・19）。植えこむ植物は、固く湿った土をものともせず、水が流れてもある程度耐えるようなセキショウ、ジャノヒゲや、地下茎で広がるシャガを活用するとよいでしょう。



緑道沿いに多い固い斜面



土留めにもなるシャガ

土が固く乾燥気味な道路の植栽樹

道路沿いの植栽樹によく見られます。植栽樹の中で根の張れる範囲は限られおり、乾燥や過剰な草刈り、道路に使われるコンクリート砕石等のアルカリ性などで土が固くなっている過酷な条件です。このような場合は、乾燥地原産である乾燥にも耐え、悪条件でも着実に大きくなる植物が向いています。アガパンサス、ローズゼラニウム、ローズマリーなどが挙げられます。



道路沿いに強いアガパンサス

7. ナチュラルガーデンの事例

令和2年3月現在

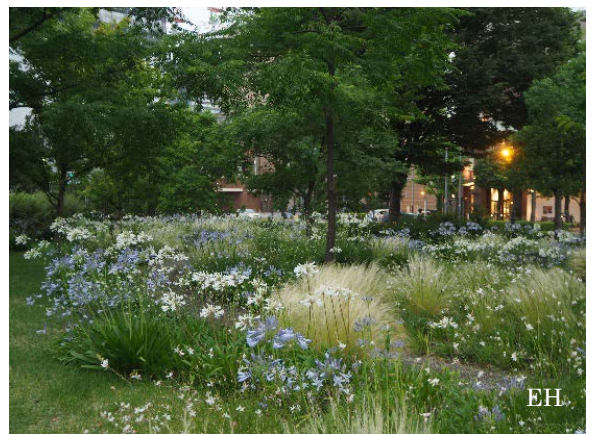
本やネットでいくら見ても、やはり実物にはかないません。幸い横浜市内には参考になるナチュラルガーデンがいくつもあるので、四季折々に訪れてみてください。きっとたくさんのヒントが見つかるはずです。誰もが注目する未来のナチュラルガーデンは都筑区のみなさんの手で作りましょう！

●新港中央広場

- ①球根のコンビネーションデザインと宿根草を多用しています。
- ②冬の植物の姿など、植物のありのままの姿を楽しめるデザインとなっています。

横浜市が宿根草を多用したナチュラルガーデンとして整備したのち、平成29年に開催された「第33回全国都市緑化よこはまフェア」の際に、オランダの世界的に有名なガーデンデザイナー・ジャクリーン ファン デル クルート氏を招き、既存のナチュラルガーデンを活かしつつ、球根植物のコンビネーションデザインと宿根草を多用し、植物の自然の姿を活用したガーデンに大幅な改良をしました。

四季折々の風景はもちろん、植物のありのままの姿も楽しめるようデザインされています。春の球根の風景、花が咲き乱れる春から夏の風景、深みが増す秋。そして、冬の間は、茶色く色褪せたシードヘッド（花が終わったあとの果実が枯れたもの）や莖葉を刈らずにそのまま残した冬の植物の姿など、他の庭では見られないような静かな美しい風景が鑑賞できます。



花が咲く初夏の風景。3種類でシンプルに



春の球根植物の風景。色彩に注目



冬の風景。枯れ姿が美しい

●新横浜メドウガーデン

- ①「人と自然のために『野草の咲く草原』花壇（メドウガーデン）をはじめよう」をテーマに作られた花壇です。
- ②遊水地という厳しい環境にも負けずに育つ宿根草をメインに植栽しています。

新横浜公園メドウガーデンは、「第33回全国都市緑化よこはまフェア」の港北区事業の一つで、ガーデンデザイナーのポール・スミザー氏にデザインを依頼し、ワークショップ参加者と共に平成29年に作り上げた花壇です。新横浜公園の環境を活かしながら、生物多様性に配慮し、遊水地でも育つ宿根草をメインに植栽しています。



夏の華やかなガーデン



秋の風景。ススキや草紅葉が美しい

●ベーリック・ホール

- ①半日陰～日陰エリアは、里山環境をイメージし、緑を主としたデザインです。
- ②様々な形の葉を組み合わせ、花がなくても楽しめるデザインとなっています。

ベーリック・ホールは、山手西洋館の1つであり、イギリス人貿易商ベーリックの邸宅を保存した文化財です。平成29年に、農村・都市計画研究所、原風景設計室、清右衛門の設計により、庭園をリニューアルしました。半日陰～日陰の庭園側の植栽は、ベーリックが暮らした頃の山手周辺の里山環境をイメージしてデザインされており、緑を主とした森の中のような落ち着いた雰囲気となっています。日当たりのよい建物側の植栽は、当時の西洋館の植栽のイメージを取り入れています。



高さの違いによる立体感



様々な葉の形を見せる

8. ナチュラルガーデン講座の記録

令和元年5月から令和2年2月にかけて、「都筑緑花塾ナチュラルガーデン講座」を全5回開催しました。都筑区役所・東方公園を会場に公園愛護会の会員とハマロード・サポーター計26名が参加しました。同種の講座を行う際の参考事例として、講座の記録をまとめました。

●第1回 ワークショップ・事例紹介 令和元年5月21日(火)

日ごろの活動についての課題意識の共有に加え、宿根草・多年草を活用した植栽手法やナチュラルガーデンの事例について学びました。

グループで「公園愛護会やハマロード・サポーターの活動において楽しい事、大変な事」「都筑らしさ」について話し合った後、講師より宿根草・多年草を活用した植栽手法やナチュラルガーデンの事例について講義がありました。



班に分かれディスカッション



ナチュラルガーデンについての講義

●第2回 事例・現場に学ぼう 令和元年8月20日(火)

日向や日陰など、環境が違う場所での植栽状況や管理の方法について学びました。

宿根草・多年草を活用した事例として、新港中央広場とベーリック・ホールの庭園を見学し、前者では設計・施工に係わった方から、後者では管理をされている方からお話を伺い、植栽状況や管理方法について学びました。ベーリック・ホールでは、お手入れ体験を行いました。



新港中央広場の見学



ベーリック・ホールでのお手入れ体験

●第3回 自然に学ぼう

令和元年 10月8日(火)

野草の生育状況の観察や、環境（照度や土壌硬度）の読み取り方を学びました。

東方公園にて、野草の生育環境等を学び、第5回で植栽を行う植栽予定地4か所の環境を読み取り、グループごとに発表しました。



土壌硬度について学ぶ



植栽地の環境を読み取り、発表

●第4回 植栽を検討しよう

令和元年 11月19日(火)

配置図と模型を作成しながら、植栽計画を策定しました。

グループに分かれ、配置図と、植栽後の風景がイメージできる模型を作成しながら第3回にて環境を読み取った植栽予定地4か所の植栽計画を策定しました。



平面図の作成



植栽模型

●第5回 実際に植栽してみよう

令和2年 2月25日(火)

東方公園の植栽予定地4か所に、植え付けを行いました。

土づくりを行い、第4回にて策定した計画を元に、植物を配置し、植え付けを行いました。



植え付け前の土づくり



植え付けを行い、完成した花壇

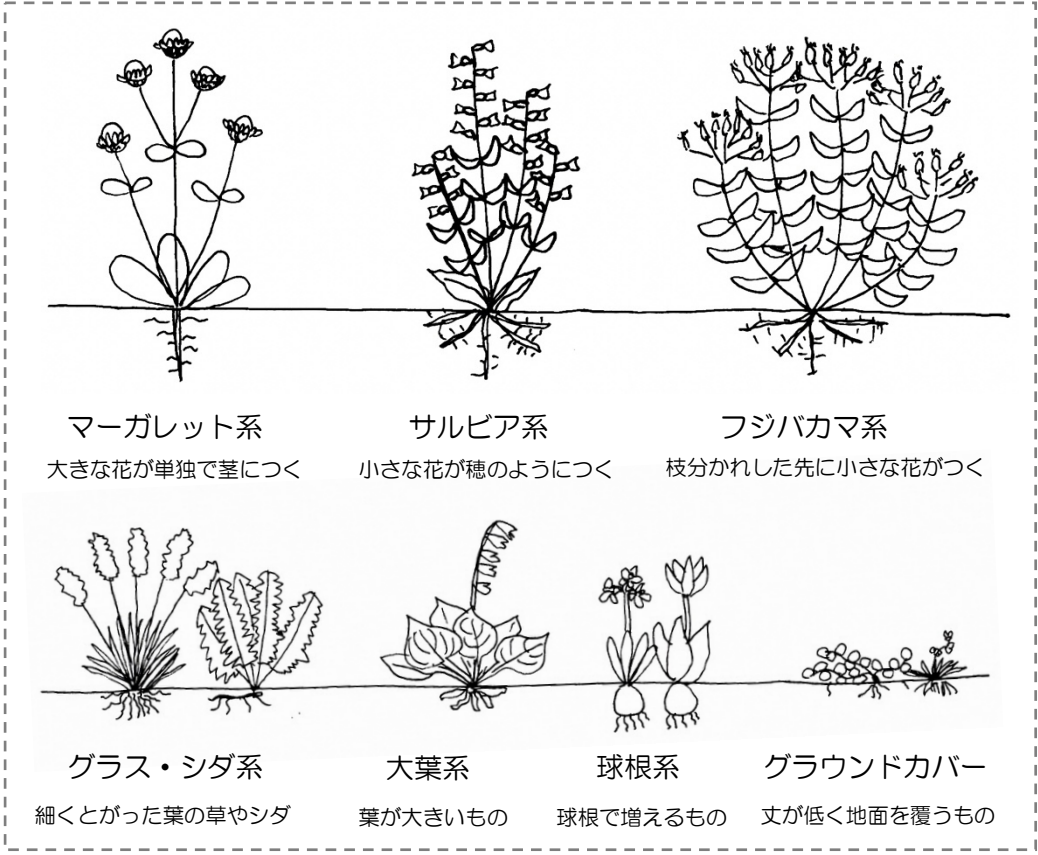
9. ナチュラルガーデン植物リスト

ナチュラルガーデン講座のデザイン実習に使用した植物のリストを掲載します。比較的入手しやすく、育てやすいものを中心に 63 種類を厳選しました。

●植物選びのポイント（再掲）

- ①都筑区の自然環境や景観に馴染むもの
- ②花色が派手すぎないなど、ナチュラルガーデンのイメージに合うもの
- ③なるべく風にそよぐような草姿で、景観に動きをもたらすもの
- ④近縁な種が日本に自生しているもの
- ⑤種や地下茎などで周囲に逃げ出し、外来種化しにくいもの
- ⑥都筑区自生の植物と交雑しにくいもの

常緑と落葉、日向から日陰、花色、草丈、葉の形などがバラエティに富むようにしました。また、デザインをする際わかりやすいよう 7 つのタイプに区分しました。迷った時は全タイプを網羅するように選ぶとそれだけでナチュラルな雰囲気を作ることができます。



タイプ別草花区分

■都筑緑花塾ナチュラルガーデン講座 植物リスト

| タイプ | 種名 | 科名 | 区分 | 日陰/日向 | 草丈 | 花期 | 花色 |
|----------|---------------|----------|-------|--------|------------|--------|------------|
| マーガレット系 | ヒメヒマワリ | キク科 | 落葉 | 日向~半日陰 | 50~80cm | 9~10月 | 黄色 |
| マーガレット系 | ミヤコワスレ | キク科 | 落葉 | 半日陰 | 20~30cm | 4~5月 | 紫、白、ピンク |
| マーガレット系 | アスター(紺菊系) | キク科 | 落葉 | 日向 | 50~100cm | 8~11月 | 紫、白 |
| マーガレット系 | ヘレニウム | キク科 | 落葉 | 日向 | 60~150cm | 6~10月 | 黄色、オレンジ等 |
| マーガレット系 | ルリタマアザミ | キク科 | 落葉 | 日向 | 50cm~150cm | 6~8月 | 青紫 |
| マーガレット系 | シュウメイギク | キンポウゲ科 | 落葉 | 日向~半日陰 | 30~150cm | 8~11月 | 紫、白 |
| マーガレット系 | チョウジソウ | キョウチクトウ科 | 落葉 | 半日陰 | 30~50cm | 5~6月 | 水色 |
| マーガレット系 | フロックス・パニキュラータ | ハナシノブ科 | 落葉 | 日向~半日陰 | 60~100cm | 6~10月 | 白、ピンク、紫 |
| マーガレット系 | ローズゼラニウム | フウロソウ科 | 常緑 | 日向 | 30~100cm | 5~7月 | ピンク |
| マーガレット系 | コンボルブルス・クネオルム | ヒルガオ科 | 常緑 | 日向 | 60cm | 4~7月 | 白 |
| マーガレット系 | キバナホウチャクソウ | イヌサフラン科 | 落葉 | 半日陰 | 30~40cm | 4~6月 | 黄色 |
| マーガレット系 | ヘメロカリス | ススキノキ科 | 落葉 | 日向~半日陰 | 30~100cm | 5~7月 | 黄色、オレンジ等 |
| マーガレット系 | ジャーマンアイリス | アヤメ科 | 落葉 | 日向 | 20~100cm | 5~6月 | ほとんどの色がある |
| サルビア系 | ガウラ | アカバナ科 | 落葉 | 日向 | 30~150cm | 5~11月 | 白、赤 |
| サルビア系 | リナリア・ブルブレア | オオバコ科 | 落葉 | 日向 | 80~100cm | 4~7月 | 紫 |
| サルビア系 | ペンステモン | オオバコ科 | 落葉 | 日向~半日陰 | 40~80cm | 5~6月 | 白、紫 |
| サルビア系 | トウテイラン | オオバコ科 | 落葉 | 日向 | 40cm | 9月 | 青紫 |
| サルビア系 | サルビア・ネモローサ | シソ科 | 落葉 | 日向 | 30~50cm | 6~8月 | 紫、白 |
| サルビア系 | ロシアンセージ | シソ科 | 落葉 | 日向 | 60~150cm | 7~9月 | 紫 |
| サルビア系 | キャットミント | シソ科 | 落葉 | 日向 | 20~80cm | 4~10月 | 白、紫 |
| サルビア系 | アガスタシェ | シソ科 | 落葉 | 日向 | 60~100cm | 6~9月 | 紫 |
| サルビア系 | カリガネソウ | シソ科 | 落葉 | 日向~半日陰 | 70~100cm | 8~10月 | 紫 |
| サルビア系 | パプティシア | マメ科 | 落葉 | 日向 | 90~120cm | 4~5月 | 青紫 |
| フジバカマ系 | アガパンサス | ヒガンバナ科 | 常緑 | 日向 | 30~150cm | 5~8月 | 紫、白 |
| フジバカマ系 | コバノフジバカマ | キク科 | 落葉 | 日向~半日陰 | 90cm | 9~11月 | 紫、白 |
| フジバカマ系 | ユーバトリウム・マクラツム | キク科 | 落葉 | 日向 | 90cm | 9~11月 | 紫 |
| フジバカマ系 | ソリダスター | キク科 | 落葉 | 日向 | 50~80cm | 7~8月 | 黄色 |
| フジバカマ系 | オオベンケイソウ | ベンケイソウ科 | 落葉 | 日向 | 30~50cm | 9~10月 | ピンク |
| フジバカマ系 | キリンソウ | ベンケイソウ科 | 落葉 | 日向 | 20~50cm | 5~8月 | 黄色 |
| フジバカマ系 | パーペナ・リギダ | クマツヅラ科 | 落葉 | 日向 | 40cm | 5~6月 | 紫、ピンク、白 |
| フジバカマ系 | アスチルベ | ユキノシタ科 | 落葉 | 半日陰~日陰 | 20~80cm | 4~7月 | ピンク、赤、白 |
| グラス・シダ系 | ロータス'プリムストーン' | マメ科 | 常緑 | 日向 | 60cm | 7~10月 | 白 |
| グラス・シダ系 | パニカム | イネ科 | 落葉 | 日向 | 90~180cm | 7~10月 | |
| グラス・シダ系 | ミューレンベルギア | イネ科 | 落葉 | 日向 | 60~90cm | 9~11月 | |
| グラス・シダ系 | アオチカラシバ | イネ科 | 落葉 | 日向 | 30~60cm | 9~10月 | |
| グラス・シダ系 | フウチソウ | イネ科 | 落葉 | 半日陰 | 20~30cm | 4~12月 | |
| グラス・シダ系 | カレックス | カヤツリグサ科 | 常緑 | 日向~日陰 | 40~50cm | | |
| グラス・シダ系 | シャガ | アヤメ科 | 常緑 | 日陰 | 30~50cm | 4~5月 | 白、紫 |
| グラス・シダ系 | クチベニシラン | ラン科 | 落葉 | 日向~半日陰 | 40~70cm | 4~6月 | 赤紫、白 |
| ダラス・シダ系 | ヤブラン'曙' | キジカクシ科 | 常緑 | 半日陰~日陰 | 20cm~40cm | 9~10月 | 紫 |
| グラス・シダ系 | クサソテツ | イワデンダ科 | 落葉 | 半日陰~日陰 | 30~100cm | | |
| グラス・シダ系 | クジャクシダ | ホウライシダ科 | 落葉 | 半日陰 | 50cm | | |
| 大葉系 | リグラリア | キク科 | 落葉 | 半日陰~日陰 | 100cm | 7~8月 | 黄色 |
| 大葉系 | ツワブキ'浮雲錦' | キク科 | 常緑 | 半日陰~日陰 | 20~50cm | 10~12月 | 黄色 |
| 大葉系 | クリスマスローズ | キンポウゲ科 | 常緑 | 半日陰~日陰 | 10~50cm | 1~3月 | 白、ピンク、紫、黄色 |
| 大葉系 | ブルンネラ・マクロフィラ | ムラサキ科 | 落葉 | 半日陰~日陰 | 30~40cm | 4~5月 | 青 |
| 大葉系 | ヒューケラ/ティアレラ | ユキノシタ科 | 常緑 | 半日陰~日陰 | 20~40cm | 5~7月 | 白、赤 |
| 大葉系 | ヒマラヤユキノシタ | ユキノシタ科 | 常緑 | 半日陰 | 30cm | 3~4月 | ピンク |
| 大葉系 | タンチョウソウ | ユキノシタ科 | 落葉 | 半日陰 | 30~50cm | 2~3月 | 白 |
| 大葉系 | ギボウシ | キジカクシ科 | 落葉 | 半日陰~日陰 | 15~100cm | 6~8月 | 白、紫 |
| 球根系 | スイセン'テータテート' | ヒガンバナ科 | 球根 | 日向~半日陰 | 10~50cm | 1~4月 | 黄色 |
| 球根系 | ラッパズイセン | ヒガンバナ科 | 球根 | 日向 | 20~30cm | 3~4月 | 黄色 |
| 球根系 | アリウム'カメレオン' | ヒガンバナ科 | 球根 | 日向 | 30~35cm | 6~7月 | ピンク |
| 球根系 | リコリス | ヒガンバナ科 | 球根 | 日向~半日陰 | 60cm | 7~10月 | 赤・黄・白 |
| 球根系 | タマダレ | ヒガンバナ科 | 球根 | 日向~日陰 | 10cm~30cm | 5~10月 | 白 |
| 球根系 | 原種チューリップ | ユリ科 | 球根 | 日向 | 20~25cm | 4月 | 赤・黄・白等 |
| 球根系 | キバナカタクリ | ユリ科 | 球根 | 半日陰~日陰 | 20~40cm | 4月 | 黄色 |
| 球根系 | テッポウユリ | ユリ科 | 球根 | 日向~半日陰 | 50~100cm | 6~7月 | 白 |
| グラウンドカバー | リシマキア | サクラソウ科 | 常緑・落葉 | 半日陰~日陰 | 10cm以下 | 4~8月 | 黄色 |
| グラウンドカバー | ピンカ・ミノール | キョウチクトウ科 | 常緑 | 半日陰~日陰 | 10cm | 3~6月 | 紫、白 |
| グラウンドカバー | ルリマツリモドキ | イソマツ科 | 落葉 | 半日陰 | 20cm | 7~10月 | 青 |
| グラウンドカバー | ブラティア | キキョウ科 | 常緑 | 半日陰~日陰 | 10cm | 4~6月 | 白~紫 |
| グラウンドカバー | ワイルドストロベリー | バラ科 | 常緑 | 半日陰~日陰 | 10~20cm | 4~10月 | 白 |
| グラウンドカバー | アルケミラ・モリス | バラ科 | 落葉 | 半日陰 | 30~60cm | 6~7月 | 黄色 |
| グラウンドカバー | エゴボディウム | セリ科 | 落葉 | 半日陰~日陰 | 30~80cm | 6月 | 白 |
| グラウンドカバー | フッキソウ | ツゲ科 | 常緑 | 半日陰~日陰 | 20cm | 4~5月 | 白 |
| グラウンドカバー | ピッタータス | キジカクシ科 | 常緑 | 半日陰~日陰 | 30cm | 8~10月 | 白 |
| グラウンドカバー | アサギリソウ | キク科 | 落葉 | 日向~半日陰 | 15cm~40cm | | |

10. おわりに

ナチュラルガーデンの作り方についてお伝えしてきましたが、その魅力は自然な風景や管理の手間がかからないことだけではありません。

●コミュニティを広げる、繋げる

- ・花壇を真ん中にして花好きの裾野を広げよう
- ・ローメンテナンスのお手入れで仲間を増やそう
- ・花をプレゼントしたり、挿し木や種を分け合ったりするコミュニティづくりを

花壇を作り、お手入れすることで、花をきっかけとした繋がりが生まれます。ナチュラルガーデンなら、「花壇は手入れが大変で…」と躊躇していた人も参加できるかもしれません。お手入れが無理でも、見守ったり応援したりという繋がりも大切です。

時にはトリミングした花でブーケや挿し木を作って贈り合うのもいいでしょう。花から生まれるコミュニティはまちをもっと楽しくします。



仲間同士で楽しく作業

●生き物の新しい居場所となる

- ・さまざまな植物が植えられたナチュラルガーデンには色々な虫が来ます
- ・虫が集まれば、鳥も訪れます
- ・花壇やガーデンに生き物が集まると、都筑区の自然がさらに豊かに

ナチュラルガーデンは、多様な植物が生育する原っぱや雑木林がお手本です。そこには多様な虫たちがやってきます。蜜を吸うもの、時には葉などを食べるもの…そしてその虫を狙って鳥やクモなども集まります。人間にとって美しい花壇やガーデンが、生き物にとっても集う場所になり得るのです。そして、集った生き物の力で、都筑区の自然全体がもっと豊かになるかもしれません。



チョウや鳥が集まるオアシスに

さまざまな魅力や可能性を秘めた「ナチュラルガーデン」。自然の仕組みを知ってコツさえつかめば気軽に続けることができます。ぜひチャレンジしてみてください！

【写真】

無印：佐々木知幸、HN：西尾春美、RT：田中玲子、EH：平工詠子

イラスト：佐々木知幸、山田りりか（標準レシピ）

【参考文献】

『工夫とアイデアでのりきる がんばらないガーデニング』井上忠佳著（誠文堂新光社）

『ランドスケープデザインの視座』宮城俊作（学芸出版社）

『Garden Diary Books はじめての小さな庭の花図鑑』辻幸治・福岡将之著（主婦の友社）

『生活実用シリーズ NHK 趣味の園芸 日照条件でわかる宿根草ガイドブック』小黒晃著（NHK 出版）

『別冊 NHK 趣味の園芸 日陰をいかす美しい庭』月江成人・月江潮著（NHK 出版）

『庭をきれいに見せる 宿根草の選び方・使い方』山本規詔著（家の光協会）

『葉を楽しむ植物を使った庭づくり LEAF ハンドブック』荻原範雄監修（エフジー武蔵）



都筑区 ナチュラルガーデンの手引き

横浜市都筑区都筑土木事務所

清右衛門 佐々木 知幸

(ナチュラルガーデン講座講師)

令和2年3月 (令和5年5月改訂)

事務局 (株) 農村・都市計画研究所

橋本忠美・西村織香・西尾春美・田中玲子・

井本沙織・服部睦子・山田りりか